

もっと気軽に「ごみ問題と向き合おう」 くるくるプラザ

吹田市資源リサイクルセンター

ごみや環境問題への関心を高めるため、リサイクルの啓発や環境問題と向き合い、日々奮闘する人たちの熱い思いに迫った。

「目の前の「ごみ問題」が
かえて見えてくるようになってきた」

「くるくるプラザ」の
名付け親

副理事長
門脇則子さん

それにかしななければいけないという意識が芽生えた。その最中、同施設が完成。リサイクルの啓発や問題解決に取り組む日々が続いた。現在活動している市民研究員や工房指導員の中には、当時の活気ある様子を知る人も少なくない。

今、吹田市ではごみが12種分別回収になり、決まった日に出せばキレイに回収されるようになった。また各種リサイクル法も整備され、目の前にあったごみ問題が、かえて見えてくるようになってきた。目下の課題はごみを発生させないよう、どう促すかである。西川理事長は「二酸化炭素削減、地球温暖化の防止等、今後どうやっていくかという未来の問題になり、なかなか市民の目には届かなくなっています」という。目に見えないからといって問題が解決したわけではない。どうすれば興味を持ってもらえるのかを、日々模索中だ。

今から25年前、全国で初めて国や大阪府の支援を受け吹田市に誕生して以来、廃棄物の減量や再生資源の有効活用を啓発に取り組んできた施設が「くるくるプラザ」である。「ごみを回収し破碎・選別する工場があると知っていても、リサイクルや環境問題の啓発施設だと知らない人はたくさんいます」。そう話すのは、設立以来同施設の運営管理を担ってきた「公益財団法人 千里リサイクルプラザ」の理事長、西川俊孝さん。高度経済成長期に入り、ごみの量が増え続け、廃棄物が社会問題化し、市民・企業・行政それ

理事長
西川俊孝さん

「くるくるプラザ」が存在する意味を知ってもらうため、日々頭と身体をフルに使っている



子どもたちからの「ありがとう」の
声に毎回感動！

市民研究員
綿谷一(はじめ)さん

「紙パックを使ったおもちゃ作りを子どもたちに教えています。最初の5分間は使用済みの紙パックの使い道を説明するなど、環境問題についての話をします」

紙パックは燃やすと
もったいないですよ！

市民研究員
金子幸平さん

「紙すきを教えるだけでなく、材料となる紙パックが大量の材木を使って作られていることを説明し、紙の大切さを伝え、リサイクルの啓発に努めています」

「作って楽しい」だけでなく
その先にある大切な事を伝える

環境問題を解決するためには市民と問題を共有化し関心を持ってもらうことが必要だという思いから、市民研究所は作られた。地球温暖化や3R(リデュース・リユース・リサイクル)等のテーマ別に市民研究員によるプロジェクトチームが編成され、大学教授の指導のもとに活動している。実践的な活動としては、「万博ごみゼロウォーク」や、市内の小学校に出向き、紙パックを使用した紙すき、楽しみながら学べる「エコゲーム」等の環境学習支援を行っている。環境問題に興味がある人なら、誰でも市民研究員になることができるという。現在、一緒に活動してくれる新メンバーを募集中である。

ごみ減量の第一歩
廃材でもこんな素敵な
作品が出来る！

廃材で
木のおもちゃ

使わなくなったランドセルで
キーホルダー

折れた傘で
エコバッグ

ト。ただ、ものを作るだけではカルチャーセンターやハンドメイド教室と変わらない。不要になった自転車や家具、廃棄されたガラスなどを有効活用することで、参加者にも大切にすることを理解してもらえるように努めている。

「いらなくなったものでも工夫次第で新しい命が吹き込まれ、愛着がわく。もの大切さを学ぶことで地球環境について見直すなど、普段から市民に小さなことでも気付いてもらうことが大事ですね」。これが西川理事長の切なる願いだ。

市民や企業と力を合わせて
今の環境問題を「見える化」

近年、資源・エネルギー問題を真剣に考えている企業が増えている。そこで生まれた現場の知恵を、同施設の市民研究員制度を利用して活用できないかを検討しているという。「市民と直接触れ合えるようワークショップやフリーマーケットの他、子どもに的を絞ったイベントを開催したり、使わなくなったものをいつでも販売できるコーナーを企画したり、これまで目を向けなかった人が足を運びたくなるきっかけを作り、まず来て体験して施設を知ってもらおう。次にリピーターになってもらい、将来的には環境問題について自ら発信していく、担い手になってもらえたら嬉しいです」と今後の展望を話す西川理事長。

市民にごみや環境の問題を身近に感じてもらうため、職員とともに市民研究員や工房指導員それぞれが、今できることを常に考え続けている。

オープン当初から
市民工房を支える2人の
工房指導員からメッセージ

布工房指導員 北田佐代子さん

「大切にきてきたけれど着なくなった着物や折れてしまった傘。新しい小物に作り替えればさらに愛おしくなるのですよ。かんたんに作れるので洋裁初心者でも大丈夫です」

木工工房指導員 岡田千代子さん

「昔の家具はいい素材を使っているので、板であれば何でも再利用できます。おもちゃから家具まで作りたいものをご相談ください。『私でも作れた!』と喜ばれる方も多いですよ」

《ワークショップ開催》

- 8月6日(日) 「レザークラフトコース」
- 8月20日(日) 「かわいい裂き織コース」

※詳しくはHPをチェック

取材協力

- くるくるプラザ(吹田市資源リサイクルセンター)
- 公益財団法人 千里リサイクルプラザ

吹田市千里万博公園4-3 TEL.06-6877-5300
http://www.kurukuru-plaza.jp/



(写真左より)
公益財団法人
千里リサイクルプラザ職員
国本美和子さん
天野美晴さん
橋本洋子さん